

令和5年7月3日

課題解決型実践事業

「身体表現的手法を用いた友達作りワークショップ（飯山南小学校）」

業務委託

報告書

友達作りワークショップ

日時 : 令和5年6月20日 (火)

小学校の授業の3時間目 10:25~11:10

講師 : yummydance (ヤミーダンス) のメンバー4名

場所 : 丸亀市立飯山南小学校 体育館

対象 : 丸亀市立飯山南小学校 1年東組、1年西組の児童41名

アンケート結果

回答者 : 丸亀市立飯山南小学校教員 4名

管理職1名

学級担任2名

特別支援教育支援員1名

ワークショップの感想を5段階で評価

全くそう 思わない	←	どちらでも ない	→	とても そう思う
1	2	3	4	5

		4か5で評価 した割合	4名の 平均点
1	普段より積極的に参加していた児童が多かった	100%	4.75
2	新しい一面がうかがえた児童がいた	75%	4.5
3	普段より自己表現していた児童がいた	75%	4.25
4	普段は消極的な児童が楽しそうにしていた	100%	4.5
5	普段は一緒にいない児童同士の交流が見られた	75%	4.25
6	自分自身にも新しい気づきがあった	75%	4.5
7	授業に取り入れられそうな要素があった	75%	4.25
8	ワークショップ後、児童の様子に変化があった	50%	3.75
9	今後も舞台芸術のプロによるワークショップを取り入れたい	75%	4.25

アンケートの自由記述欄の回答

いつも元気な一年生ですが、より伸び伸びと表現活動を楽しんでいたように見えました。

どんな動きや発想も受け止めてくださり、安心している子どもたちの表情が印象的でした。

表現すること、友だちと一緒に活動することの楽しさを実感することができた有意義な取り組みであったことに感謝申し上げます。

体育の表現運動で「動物になってみよう」など自分の体を使って表現する活動はあるが、今回は自分の体の動きのおもしろさに気づくことができました。

子どもたちが生き生きと活動しており、年齢問わずオリエンテーションで活用できるなと感じました。

二人組になって“○”をつくる活動がいいなと思いました。

粘土になった子を一人ずつ動かしていくのも一体感がありおもしろかったです。

ワークショップ写真

ヤミーダンスの動きを真似してみる



協力して“○”をつくる



自分では動かない“人間粘土”の体を、自由に変えて 面白いポーズをつくる



児童も“人間粘土”になり、グループごとにポーズをつくる



みんなの前で発表



所感

【児童の雰囲気】

4月に小学校に入学したばかりの1年生が対象であったため、ワークショップが始まったばかりは、全体にまとまりがなく、体育館を自由に走り回る児童が多かった。そこで、体の一部を使い友だちと協力して“○”の形をつくるゲームを取り入れた。すると、自分の体の使い方を工夫しながら児童同士が相談し、様々な方法で小さいものや大きいもの、ねじれているもの等、色々な“○”をつくることができ、集中して取り組むことができた。

【“人間粘土”で体験できたこと】

代表者一人が、自分では動けない粘土役になり、その他の児童が一人ずつ順番に、人間粘土役の人の体の一部を自由に動かすことで、面白いポーズをつくった。体の一箇所を動かすだけで、新たな体のカタチが生まれる。動かされる方も、動かした方も、見ている方も、体が持つ感覚や印象が大きく変わる。そのカタチをうけ、次の人がさらに体を一箇所動かすことを繰り返すことで、それぞれのアイデアがどんどん追加され、新たな発見を重ねあう驚きと笑いの絶えないワークとなった。

人間粘土を動かす役の児童は、友だちの体を触って自由に動かしてみることに加え、自分の順番が来るまでは、他の児童がどのように人間粘土を動かすのかをよく観察することができていた。児童にとっては「友だちに触ること」自体が新鮮だったようで、興味を持って取り組んでいた。

また、動かない人間粘土役となった児童の中には、友だちが自分の体を動かすことが痛いと感じ、泣いてしまった人もいた。「痛い」という感覚の経験は、自分が感じた痛みを友だちにはしてはいけないという勉強になった。逆に人間粘土を動かした児童は、どのくらいの力で触れると人は痛がるのか力加減を理解することができたことに加え、故意にしたことではなくても、自ら謝ることができたこともよい経験となった。

4つのグループ分けをして、それぞれのポーズを見せあうことで、自分のチームにはなかった新たな発想を得ることができた。また、ポーズが完成するまでの過程を友だちと相談しながらつくっていくことで、コミュニケーション能力が向上したり創造性が豊かになったりした。